



アースキャラバン Earth Caravan 2015

広島→ヨーロッパ→エルサレム



「Earth Caravan 2015」

事業報告書

① 7月 5日(日)	アースキャラバン・スタート 広島(平和公園周辺)
② 7月12日(日)	京都(知恩院、円山公園野外音楽堂)
③ 7月19日(日)	東京(港区芝 増上寺)
④ 7月25日(土)	ドルンビルン(オーストリア)
⑤ 7月26日(日)	ダッハウ(ドイツ)
⑥ 7月27日(月)	ミュンヘン(ドイツ)
⑦ 7月28日(火)	プラハ(チェコ)
⑧ 7月28日(火)	テレージェンシュタット(チェコ)
⑨ 7月30日(木)	アウシュビッツ(ポーランド)
⑩ 7月31日(金)	ウィーン(オーストリア)
⑪ 8月 6日(木)	ベツレヘム(パレスチナ)
⑫ 8月 9日(日)	ネブジャローム(イスラエル)
⑬ 8月12日(水)	エルサレム 最終セレモニー

Earth Caravan 2015「分かち合おう地球を、幸せと自由を SHARE！」

戦後70年目の節目あたる2015年夏、広島からエルサレムまで、原爆の残り火「平和の火」を携え、世界8か国を巡礼し、平和と祈りのコンサートやイベントを行う「アースキャラバン」がスタートしました。

京都を経て東京までの約1000kmを「ピースサイクリング」として自転車で運び、その後、空路ヨーロッパへ飛び、アウシュビッツなどヨーロッパの戦災遺構で、現地の人々と共に平和の祈りを捧げました。

また、今回は世界で初めて、今なお困難な状況が続いているパレスチナ及びイスラエルに、「平和の火」を届けることができました。アースキャラバンは、人種や宗教を超えて、すべての平和を願う人々と共に語り合い、歌い、踊り、祈り、平和を願う人々の想いを集め、戦争のない明るく平和な未来の実現に向けてその歩みを進めてまいります。

特定非営利活動法人ユニ

Japan. Europe. Middle East. North America.

「Earth Caravan 2015」 事業報告

【目 的】

人種、宗教、国籍、思想信条などを超えて、地球に生きるすべてのいのちを大切に、紛争や戦争のない平和な世界の実現を目指して、「分かちあおう地球を、幸せと自由を SHARE！」をテーマに、他文化を理解し相互理解を深めるために Earth Caravan2015（アースキャラバン）を実施します。

【期 間】 2015年7月5日（広島）～8月12日（エルサレム）

【主 催】 特定非営利活動法人ユニ（理事長 野本祐子）

【共 催】 浄土宗平和協会（国内）

【協 力】 公益財団法人浄土宗ともいき財団

【後 援】 広島市、長崎市、京都市、東京都港区、駐日パレスチナ常駐代表部、中国新聞、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、毎日新聞社、朝日新聞東京総局、京都新聞社、KBS 京都、エフエム京都、（公財）広島観光コンベンションビューロー、（公財）ひろしま国際センター、（一社）広島県観光連盟、（公財）京都府国際センター ほか

【発起人】 遠藤暁及（えんどうりょうきゅう 浄土宗和田寺住職）

【概 要】

平和のシンボルである広島原爆の残り火「平和の火」を携えて、被爆地・広島からスタートし、日本国内～ヨーロッパ、中東各地を平和へのメッセージを発信しながらキャラバンしました。最終地である中東の聖地エルサレムでは、世界の4つの宗教の宗教者が一同に会し、人類平和のための祈りと声明を発表。



各地で相互理解のための場の創造としてピース・コンサート、ピース・アートギャラリー、18ヶ国の人々が歌うテーマソング「SHARE！」や4大宗教融合ソングの合唱、平和への祈り、を行いました。「アースキャラバン 2015」では、相互理解のための場の創造、祈り（平和への願いと戦争犠牲者への祈り）、戦争で傷ついた人々への支援、を3つの柱としました。

【全体行程】

2015年7月15日、世界で最初の被爆国である日本から、平和への願いを世界に伝えるために、広島原爆の残り火である「平和の火」を携えて、広島市の平和公園から「Earth Caravan 2015」がスタートしました。

広島から京都（知恩院）、東京（増上寺）までは、「ピースサイクリング」として、イギリス人女性スーザン・エディさんが自転車で運び、見事に完走。その後、7月23日に空路でヨーロッパへと移送され、強制収容所であったアウシュヴィッツ、ダッハウで祈りを捧げ、ミュンヘン、ウィーン各地では現地のフェスティバルに参加。様々な宗教の教会を訪問し交流を深め、街頭で子ども達と一緒に平和を訴えました。

ウィーンからイスラエルまでは再び空路で移動。その後、パレスチナ各地を訪れ、現地の人々の歓迎を受けました。8月6日広島、9日長崎、の原爆の日には、核兵器廃絶と戦争のない世界の実現への願いをこめて、「SHARE」や4つの宗教融合曲などのアースキャラバン・テーマソングの合唱で祈りを捧げました。

最終日の12日には、世界の4つの宗教（キリスト教、仏教、ユダヤ教、イスラム教）の宗教者たちが、戦争で亡くなった人々のために平和祈念追悼会を合同で行い、世界平和の実現に向けた共同声明を発表。

今回、300人以上の大人と子どもが世界への願いを文字と絵に表現し（ピース・アート）、600人以上の子どもがピースフラッグ（平和の旗）を作りました。発起人の浄土宗和田寺住職・遠藤暁及が作詞・作曲したキャラバンのテーマ曲「SHARE！」は、現在、16の言語により18ヶ国の人々によって歌われています。

Earth Caravan 2015 in 広島



【日時】 7月5日（日） 12:00～20:15

【会場】 広島市ハノーバー庭園及び平和記念公園 周辺（出展ブース約44）

【概要】 「アースキャラバン 2015」は、被爆から 70 年の節目を迎えた広島からスタート。

福岡県星野村で保管されている広島原爆の残り火「平和の火」を分灯させていただき、世界へと運びます。会場の平和記念公園周辺では、朝 10 時から平和への願いと原爆犠牲者への祈りから始まり「平和の火」の点灯式などを経て、東京への 1000km の道のりに挑戦する「ピースサイクリング」出発式が行われました。



メインサイクラーのイギリス人女性スーザン・エディさんや、最初の区間を併走して下さる、俳優の鶴見辰吾さんとそのチーム「LEGON レゴン」のメンバーが元氣一杯に出発。夕方までピースコンサートやピース・アート、ピ

ースマーケット（44 ブース）が盛大に開催され、大人から子どもまで楽しめる内容でした。

夜になると原爆ドーム前で、ピースキャンドル・ナイトが行われました。

呼びかけ人・遠藤暁及の音楽ユニット「アミナダブ」の安らぎと癒やしに満ちた演奏の中、たくさんの人たちが原爆の残り火をキャンドルに灯し、核兵器廃絶と恒久の世界平和への願いを込めて、原爆で犠牲になられた人々の御霊に祈りを捧げました。

また、世界的な作詞家クリス・モズデルさんがアースキャラバンのために書き下ろした『The Flame Of The Golden Flower「金色（こんじぎ）の華の炎」』を自ら朗読、聴衆に感動を与えました。その後、福山、倉敷でもイベントを開催。



Earth Caravan 2015 in 京都



【日時】 7月12日（日） 11:00～20:00

【会場】 京都市円山音楽堂、浄土宗総本山知恩院（三門・阿弥陀堂）周辺（出展ブース約31）

【概要】 アースキャラバン京都は、名刹・浄土宗総本山知恩院にある阿弥陀堂での平和と祈りの祭典からスタートしました。同時刻、円山音楽堂では 31 のピースマーケットやチャリティブースを設置し、石井フィアーナさんによる力強い挨拶のあと、ピースコンサートがスタート。オープニングにはパレスチナ問題に詳しいニッキー・マツモトさんが登場。お昼過ぎには映画「小さき声のカノン」で知られる映画監督の鎌仲ひとみさんが駆けつけて下さり、メッセージをいただきました。

夕方には「平和の火」を広島から自転車で運んできたスーザン・エディさんが知恩院三門前に到着。京都在住の被爆者、花垣ルミさんらが出迎えて下さいました。



17 時から、挨拶のあと、歴史ある知恩院三門でのコンサートが始まり、有名な「CARAVAN」や「CAMEL」で活躍されたデイブ・シンクレアさんや岡野弘幹さん、アミナダブの演奏が行われ、夕暮れの幻想的なロケーションの中で 200 名あまりの聴衆を魅了。また、異なる宗教をもつ 5 名の方がそれぞれに平和への思いを語って下さいました。ク

リス・モズデルさんによる感動的な詩の朗読のあと、フィナーレとして、遠藤暁及作曲による 4 大宗教融合ソングが、20 数名の OSM ゴスペルアンサンブルの皆さんと共に合唱され、熱気が渦巻く中、京都イベントの幕を閉じました。



Earth Caravan 2015 in 東京



【日時】 7月19日（日） 11:00～20:00

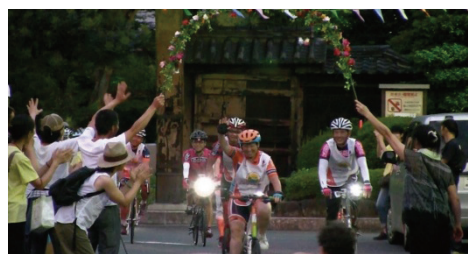
【会場】 東京都港区 浄土宗大本山 増上寺境内 （出展ブース約60）

【概要】 国内イベントの最終地である東京イベントの会場は、東京タワーのすぐそばにある増上寺。午前 11 時「平和の祈り」でスタートし、60 店にも及ぶ多彩なお店にご出店いただきました。ピースコンサートでは、原田真二さんをはじめ、キャラバンに賛同するアーティストたちが、平和への祈りを込めて音楽やダンスのパフォーマンスを行いました。

また、平和に関する興味深いテーマの講演会・ワークショップを開催。キッズゲルニカ展示およびワークショップでは、ピカソの「ゲルニカ」と同じサイズのキャンパスに、平和をテーマに子どもたちが絵を描くという、国際平和壁画プロジェクトと連携させていただきました。

夜には、7 月 5 日に広島を出発した「平和の火」が、スーザンさん、鶴見辰吾さん、レゴンメンバーたちの伴走により、1000km を走破し、国内最終地である増上寺会場で感動的なゴールを迎えました。その後、鶴見さん、長崎原爆被爆者の田中熙己さんから、平和へのメッセージをいただきました。

5 宗教融合セレモニーとして、井上広法さん（仏教）、スワミ・サドヨージャータさん（ヒンズー教）、ダニー・ネフセタイさん（ユダヤ教）、五十嵐弘志さん（キリスト教）、スレーマン・ハリードさん（イスラム教）、それぞれの手に分火された 5 つの火を、もう一度ひとつの平和の火にするセレモニーを行いました。クリス・モズデルさんによる書き下しの詩「The Flame Of Golden Flower（金色の華の炎）」の朗読をフィナーレに、国内最後のイベント、アースキャラバン東京を終えました。



5 宗教融合セレモニーとして、井上広法さん（仏教）、スワミ・サドヨージャータさん（ヒンズー教）、ダニー・ネフセタイさん（ユダヤ教）、五十嵐弘志さん（キリスト教）、スレーマン・ハリードさん（イスラム教）、それぞれの手に分火された 5 つの火を、もう一度ひとつの平和の火にするセレモニーを行いました。クリス・モズデルさんによる書き下しの詩「The Flame Of Golden Flower（金色の華の炎）」の朗読をフィナーレに、国内最後のイベント、アースキャラバン東京を終えました。

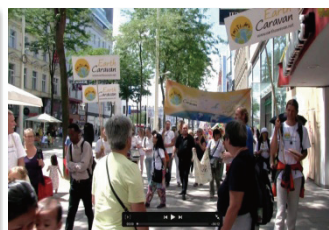
Earth Caravan 2015 in ヨーロッパ



【日時】 7月25日（土）～7月31（金）

【会場】 オーストリア（ドルンビルン、ウィーン）ドイツ（ミュンヘン、ダッハウ）チェコ（プラハ）ポーランド（アウシュヴィッツ）

【概要】 ヨーロッパ・アースキャラバンは、1. 異宗教間と異文化間の対話 2. 過去と現在の戦争と紛争の事実の認識 3. 平和のメッセージを伝える 4. 広島の「平和の火」をもたらす 5. プロジェクト寄付金募集、をテーマに現地のユニ関係者と、日本から駆けつけたメンバーによって運営されました。



未来の世界をより良く明るいものにし、暴力からの解放を訴えるために、文化や肌の色をこえて、個人や団体がアースキャラバンに招待されました。できるだけ多くの人と出会い、平和のメッセージを送るため、「平和のために立ち上がろう！」という言葉はハート型のカードに手書きして道行く人に渡し（約 5000 人）、ピースハグをしました。また、様々な宗教が互いの霊性を認め合うために、ヨーロッパの各地において異なる宗教者と共に祈り、4 大宗教融合のテーマソングを歌いました。

ドルンビルの「アースヒーリング・フェスティバル」の開会式では、水に浮かべられた「平和の火」がとても幻想的でした。異なる国の音楽グループが共に祭りを祝って演奏し、参加者と4つの宗教の代表者が各宗教の寺院や教会を平和行進しました。強制収容所のあったダッハウとアウシュヴィッツでは、仏教とカトリックの僧侶と共に約50人が礼拝に参加し、異宗教合同で執り行われました。一人一人が原爆の残り火を祭壇に捧げ、それぞれの願いを宣言。偶然にも、式典終了と同時に教会の鐘が響き渡り、戦争のない世界の実現に向けたアースキャラバンの巡礼を祝福しているかのようでした。



ウィーンでは異なる宗教の平和活動家が約70名参加して4つの宗教の寺院（フォーガンジャン仏教寺、ユダヤ教記念ターナーシナゴグ、ラビダスイスラム教寺院と福音復活教会（エバングリカル・リサレクション・チャーチ）、マリアヒルファー・

カトリック・教会）や教会を周り、祈りと歌を捧げました。

各宗教者に、平和のために人類には何が欠けていて、何が必要かを尋ねたところ、「相手を理解すること」「相手を愛すること」と、異なる宗教を信仰する人たちが、皆さん同じことを口にされました。悲しみに満ちた原爆の残り火

が、異なる宗教者を引き合わせ、未来への道標を指し示してくれたことに、深い意味を感じました。

広島から持って行った平和の折り鶴を平和のメッセージと共に差し上げました。「平和の火」はツアーの各地にもたらされ、8月6日広島原爆の日、400人が参加者したウィーンの「Hiroshima Day」、また、9月28日には、1000人が参加したウィーン・ノイシュタットにおける、避難民のための「ライトシー・ソリダリティ・イベント」にも、もたらされました。

Earth Caravan 2015 in 中東

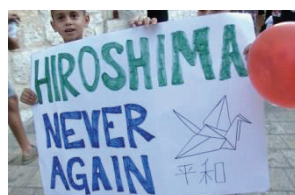


【日時】8月6日（木）～8月12日（水）

【会場】パレスチナ（ベツレヘム他）、イスラエル（ネヴ・シャローム他）

【概要】イスラエルの現地スタッフの努力により、世界で初めて「平和の火」を中東の地に届けることができました。広島や長崎については、現地の人々にもよく知られており、被爆の悲惨な現実から復興してきたことが、長年に亘って困難な状況に苦しむ人々の励ましともなっているようでした。

広島に原爆が投下された6日には、世界でただ一つ、イスラム教、ユダヤ教、キリスト教のシンボルが祭られているエルサレムの教会の屋上で、原爆の残り火を囲んで祈りをささげました。また、ベツレヘムでは、今年で3回目となるパレスチナ最大級の音楽フェスティバルに参加。オープニングでアースキャラバン・テーマソング「SHARE!」を歌いました。その後、ベツレヘムのメインストリートをメ



イン会場のステージまで鼓笛隊を先導に「平和の火」と共に行進し、ステージ

で歌いました。パレスチナの子供達が「ヒロシマを二度と繰り返すな」「未来のため

に核兵器廃絶」「平和か核兵器か選ぼう」「私たちの世代のために核拡散を止めて」というプラカードを掲げてくれて、「遠くまで原爆の残り火を運んできてくれてありがとう!」と、笑顔で話しかけてくれたのが印象的でした。

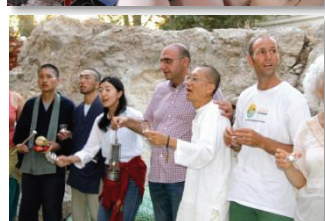
フェスティバル・メインステージでは、アースキャラバン発起人・遠藤暁及のバンド、アミナダブ、キャラバン賛同人ニッキー・マツモトさんのライブがあり、サブステージでは、マルチプル・レリジョン・コーラス（4 大宗教融合ソング）を披露しました。また、ベツレヘムやアラブ系イスラエル人の住むオフキムなどで、タオ療法のチャリティ施術と折り紙などのワークショップを実施。

長崎原爆の9日には、イスラエルのネヴ・シャローム（ヘブライ語で「平和のオアシス」）に行き、イスラエル人とパレスチナ人が共に生活するコミュニティで、異宗教合同の平和の祈りを捧げました。

アースキャラバンの訪問地は、エルサレム・ヘルツルの丘にあるホロコースト国立記念館（ヤド・ヴァシェム）、南ヘブロンのスーシヤ村、テント・オブ・ネイションズ、7回イスラエルに破壊されたパレスチナ人の家「ベイト・アラビーヤ」、ショーファット難民キャンプ、イスラエルとガザ地区の国境エレザ・クロッシング近郊のキブツ、ニリム、ベドウィン村（ワディ・ミトナン）など。各地で現地の人々のお話を聞き、現状を知り、考えることで、平和への願いを深め、現地の人々と共に祈りました。



テント・オブ・ネイションズでは、農地の雑草をとる作業を手伝い、お話を聴きました。1916年に当時のオスマントルコから土地を買い、代々そこで農業しながら、自給自足の生活をしてきた人達。今は四方をイスラエルの入植地に囲まれていて、土地の売却をと言われたが、「大地は母だ。母を売れない」と拒否したら、収穫時期のぶどうの木を200本も切られる事態に。電気、水道などのインフラも未整備のままとなっているため、雨水利用、太陽光発電、オーガニック農業を展開し、今ここは、世界中からボランティアが手伝いに来る場所になっています。「私たちは敵になることを拒否する」をモットーに、ポジティブでクリエイティブな未来を目指して、イスラエル人でもユダヤ人でも誰でもウェルカム！との姿勢を貫いています。



8月10日は『アースキャラバン・「ベイト・アラビーヤ」@パレスチナ』として、イスラエルやパレスチナの人々、ヨーロッパや日本の人々が一堂に会し、「other side」というテーマで語り合いました。8月11日にはイスラエル・ベドインの子ども達と、折り紙、チャトランガ、気心道を楽しみ、ピースフラッグを掲げてもらいました。

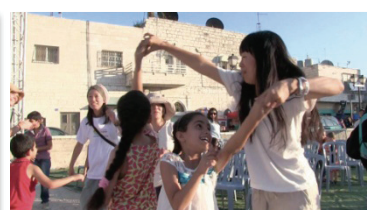
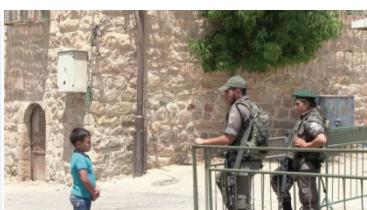
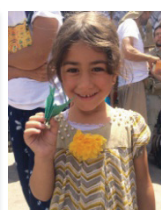


イスラエルによる検問所は、パレスチナのヨルダン川西岸地区だけで600ヶ所もあります。厳しい環境下で生活しているパレスチナの人々ですが、どこでも笑顔でアースキャラバンを歓迎して下さいました。現地の様々な立場の方々と交流を図り、パレスチナの持つ問題についての理解を深め、考え、平和への思いを伝え合うことができました。

最終日8月12日は東エルサレムで、世界の4つの宗教の宗教者が一同に会し語り合い、アースキャラバン呼びかけ人・遠藤暁及から、共同声明が発表されました。

『このエルサレムで、日本から運んできた、この平和の火「広島原爆の残り火」を前にして、私たちは願い、また誓います。

「世界中でもっとも厳しい状況にあるとも言えるこの地で、子ども達に平和が訪れるように」と。この地で平和が達成されるなら、やがて世界中に平和が訪れるでしょう。世界中の人々が幸福になれるでしょう。私たちはこのことを信じ、これを共同声明といたします。』 共同声明 2015年8月12日 エルサレムにて



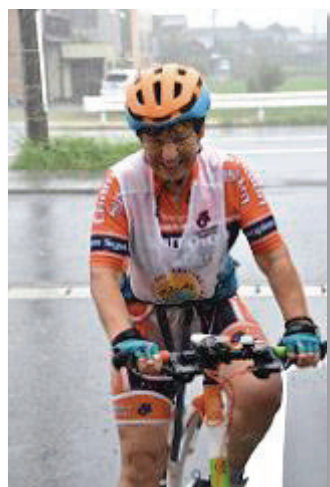
Earth Caravan ピースサイクリング



【日時】 7月5日（日）～7月19日（日）

【行程】 広島市平和公園～京都・知恩院～東京・増上寺

【協力】 ◇使用自転車・アンデックススポーツサイクル製「ミケ風」/◇鶴見辰吾・チーム「LEGON レゴン」◇顧問・高橋要一（アンデックス（株）スポーツサイクル事業部チーフプロデューサー）◇アドバイザー・本村耐樹、川合利尚 ◇スペシャルサンクス・大坪明博、福留智史、斉藤孝穂、ご協力いただいた方々。



【概要】 福岡県・星野村に現在も燃え続けている広島原爆の残り火である「平和の火」。戦後70年目の節目あたる2015年夏、この平和の火を携えて、広島から出発して京都を経由、東京までの約1000 kmを自転車で搬送。火は日本国内を経てヨーロッパから、世界で初めて中東へと運ばれて、平和のメッセージを発信しました。

「平和の火」を運んだメイン・サイクリストは、イギリス人女性のスーザン・ジェーン・エディさん。約30年前から日本に住み、空手や指圧、仏教を学んできたスーザンさんは、アースキャラバンの目的に共感し、ピースサイクリング計画に自ら手を挙げました。

星野村で採火された火は聖火用カイロに保管され、7月5日に広島をスタートし、1日50～100 kmを走破するというハードな計画の中、風雨や炎天にさらされながらも、様々な人たちの応援を得て、京都を経由し、東京まで無事に完走することができました。スタート地点となった広島ハノーバー庭園と中継地点の京都・知恩院 円山公園音楽堂では、「平和と祈りの祭典」が行われました。

全区間の延べ参加者数は80～100人。俳優の鶴見辰吾さんが主宰する自転車チーム「LEGON レゴン」もスーザンさんの走破をバックアップ。鶴見さん自身も、広島・中央公園ハノーバー庭園から広島空港までの第1区間と、増上寺までの最終区間を仲間と共に並走しました。その後、「平和の火」は7月22日に羽田空港より空路ヨーロッパに向けて旅立ちました。

各地のキャラバン開催地では、ランプに移し換えられて灯された「平和の火」が、人類が決して繰り返してはならない核兵器による被爆の記憶と共に、人々の心に平和への願いとして刻まれました。



【平和の火とは？】

戦争中、広島の連隊にいた星野村出身の山本達夫さんという方が、被爆後の焦土と化した広島で、亡くなった叔父さんの経営していた書店を訪ね、倉庫で燃えていた火をカイロに収めて、星野村に持ち帰られ保管されていたものです。その後、星野村に引き継がれて、今日に至ります。

【提供】 使用自転車/アンデックススポーツサイクル製「ミケ風」・自転車提供/アンデックス株式会社スポーツサイクル事業部様、ヘルメットその他自転車用品提供/株式会社オージーケーカブト様、サイクルウェア提供/株式会社チャンピオンシステム様

Earth Caravan 2015 支援報告



1. 【シリア難民への支援】（総額 1500 ユーロ＝約¥202,500）

① ウィーンとドルンビルンの2か所、アースキャラバンに参加した団体を通じて支援しました。

支援先： 福音復活教会（ウィーン） 責任者： Hans Jurgen Deml（ハンス・デムル） 牧師（写真 右）



＜ハンス牧師より＞

「アースキャラバンの皆さま、私たちの「難民のホーム」への支援をありがとうございました。皆さまの支援により、彼らをオーストリアに温かく迎える用意ができました。こ

のホームは現在、15 家族、2 才から 14 才までの 8 人の子供達の世話をしています。娘の 1 人はシリアの爆撃で亡くなり、母親の 1 人はトルコでの逃避行中に亡くなりました。彼らは 6 週間もの間、海でトルコへ渡り、さらにバスと徒歩でバルカン諸国を抜けるという危険な逃避行を続けていました。

現在彼らは難民認定され、子ども達も幼稚園や学校に行けるようになりました。」ハンス・デムル牧師

※ウィーンのアースキャラバンでは、現在、彼らの冬の衣服などを集めています。

② 生活支援の他、法律支援、心理支援、また就労支援などを行っている、VINDEK PROTECTION という、ドルンビルン（オーストリア）の難民センターの活動を支援しました。

ドルンビルン難民センター (Vindex Protection)

責任者：ピーター・メンネル Peter Mennel

＜ピーター・メンネルさんから＞

「アースキャラバンの皆さんによる支援で、シリア難民 30 家族を支えることができました。ご支援ありがとうございました！皆さんのことを想うたびに、私は皆さんとの深い精神的なつながりを感じます。」ピーター・メンネル



2. 【ガザへの支援】（総額 1500 ドル＝約¥180,000）

1) クラウドファンディングで集まったお金の 50%である\$1200

2) アースキャラバンがベツレヘム・フェスティバルで行った「チャリティー指圧」で集まった\$300。



両者の合計\$1500 で、ガザの Ahmed Tawahina 医師による、子ども達のトラウマを癒すなどの活動を支援しました。

＜ガザの医師・アメッド・タワイナさんから＞

「アースキャラバンよりお送り頂いたご寄付により、爆撃で傷ついた子ども達の心理的トラウマの癒しと、そこから引き起こされる問題行動に取り組むための教師たちのトレーニングを行うことができました。皆さま、ご支援ありがとうございました。」（アメッド・タワイナ）

責任者：Ahmed Tawahina 医師

住所： Gaza, el jundi el majhoul

3. 【ルワンダへの支援】1000 ユーロ（約 ¥135,000）

首都キガリから車で3時間ほど離れたところに、「ムタラ」という、電気も水道もない町があります。そこにベトナム出身のシスターが中心とするムラタ修道会があり、女性の自立とストリートチルドレンのサポートをしています。アースキャラバンは、その活動を支援しました。



支援金 1000 ユーロ（約¥135,000）は、現在ルワンダに在住し、音楽を教えていらっしゃる齊藤照子さん（74）が管理する「SHARE 口座」に送金しました。

＜ルワンダの齊藤照子さんから＞

「尊い支援金ですので、有意義に生かすことができるよう、支援させていただきます。ご報告と共に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。」
（齊藤照子・ルワンダ在住）



支援先：修道院「イエスの小さい姉妹の友愛会」ムタラ修道院
TEL (250) 786779752

責任者：プリン（ベトナム人シスター）

4. 【ネパール災害支援】 ¥100,000

大変な地震で被災したネパール。震源に近い Sindupalchouk 村の仮設住宅を支援しました。

24 家族+に、それぞれ『米 20 キロ、タンパク 源としてのダル豆 3 種類を 4 キロ、食用油 3 リットル、塩 1 キロ、紅茶 500 グラム、砂糖 3 キロ、石鹸 2 個、洗濯石鹸 2 個のパッケージ』を配りました。

責任者：Raju Subedi 氏（右側＝金田サラソティーさんの弟さん）



Earth Caravan 2015 収支報告



【総 収 入】 6,031,320 円 ■マーケット支援金 590,990 円 ■ユニへの寄付金 1,447,246 円

■アースキャラバン事業費（ユニ拠出） 3,600,000 円 ■雑収入 393,084 円

【総支出額】 6,019,686 円 ■海外支援金 617,500 円 ■キャラバン運営費 5,402,186 円

【収支差額】 11,634 円

【ご 報 告】 今回のアースキャラバンでは、シリア難民やガザ、ルワンダの子ども達への支援及びネパールの災害支援活動に対して、総額「617,500 円」を送金させていただきました。各地のイベントでは、約 135 の出店者様のご協力のもと、売上から経費を差し引いた純益 100%、総額「590,990 円」をアースキャラバン支援金としてご寄付いただきました。皆様方のご厚意に対し、心より御礼申し上げます。

広報活動は、記者会見、チラシ・ポスター、CD、DVD、ラジオ出演、ホームページなどの媒体により行いました。お陰をもちましてマスコミの取材も多数いただきました。なお、スタッフは全員、無報酬のボランティアとして活動いたしました。この度の皆様方のご支援・ご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

2015 年 12 月 1 日 アースキャラバン実行委員会 全体実行委員長 遠藤暁及

Earth Caravan host organization



【主催団体・NP0 ユニについて】

名称	特定非営利活動法人 ユニ
設立	平成 18 年 4 月 26 日
事務所	京都市東山区古門前通大和大路東入元町 367 番地 2
代表者	理事長 野本祐子（設立時理事長 遠藤暁及）
目的等	人種、国籍、宗教、信条を問わず全ての人々に対して、気と心の学校の開講、全体の施術、地域通貨の運営、芸術活動、海外援助活動に関する事業を行い、世界中の明るく豊かな未来に寄与することを目的とする。
事業内容	①気と心の学校の開校 ②全体の施術 ③地域通貨の運営 ④チャリティーコンサート、チャリティー展覧会の企画及び運営 ⑤海外援助活動⑥その他

沿革

- 平成 18 年 4 月 26 日 浄土宗和田寺の住職でタオ指圧創始者の遠藤暁及によって設立される。東京と京都で「気と心の学校」、チャリティ施術等を開始し現在に至る。中東の子ども達への支援を開始。
- 平成 19 年度 バングラデシュの子どもたちに対する教育支援活動を開始(孤児院 1、小学校 2 を開設。以後、毎年継続的に支援)
- 平成 21～22 年度 ハイチ地震復興支援活動
- 平成 23 年 3 月 東北大震災支援活動開始(物資援助、被災者への定期ボランティア指圧の実施)、「ユニ・チャリティフェスティバル 2011」開催。
- 平成 24 年～25 年度 パレスチナ支援、タイ/HIV 孤児施設への支援。京都センターにて、震災避難者にボランティア指圧施術(月 2 回)、気仙沼避難所にボランティア施術者派遣。「ユニ・チャリティフェスティバル 2012」京都・国際交流会館にて開催。
- 平成 25 年度 フィリピン、レイテ等台風被害支援(椰子の木募金)アメリカ・オクラホマ竜巻支援金。戦時写真返還プロジェクト(元アメリカ兵が所持していた写真の写真展開催。2 遺族への返還。沖縄タイムス、朝日新聞、京都新聞に記事掲載)、京都・梅小路公園にて「ユニ・チャリティフェスティバル 2013」開催(チャリティ収益金約 100 万円)。
- 平成 26 年度 バングラデシュの少数民族仏教徒ラカイン族の里親プロジェクトを開始。
- 「アース・キャラバン 2015」広島からスタートし、ヨーロッパ、中東を巡り、エルサレムにて終了。
- 「アース・キャラバン 2016」実行委員会発足。

【Earth Caravan 発起人プロフィール】

- ・遠藤 暁及/ 浄土宗和田寺住職
タオ指圧/気心道創始者、ミュージシャン、平和活動家、ゲーム発明家(チャトランガ)など、様々な顔を持つタオサンガ・インターナショナル代表(国内 2 拠点、ヨーロッパ、アメリカ、カナダなど海外 11 拠点)。
1990 年より、世界 12 か国で、タオ指圧&気心道、念仏ワークショップ等を行う。
「く気と経絡」癒しの指圧法(講談社+α新書)など、9 冊の著書があり、その多くが数か国語に翻訳出版。
音楽家としては、6 枚の CD アルバムをリリースし、内外のテレビやラジオでオンエアされている。
アースキャラバン 2015 のテーマ曲「SHARE!」は遠藤氏の作詞作曲。
オフィシャルサイト：<http://endo-ryokyu.com/>
- ・伊藤 憲正(ito 商会代表、被爆二世)/広島担当、石見 洋二(胎内被爆者)/広島担当、
- ・梶川 純司(音楽総合プロデューサー、被爆二世)/広島担当 アースキャラバン広島の音楽プロデューサー。
- ・Nikki Matsumoto(ニッキー・マツモト)ソングライター、ギタリスト、ボーカル、琵琶奏者、作詞&作曲家。

◇ヨーロッパ

- ・アルフレッド・ミューラー/ウィーン阿弥陀センター代表、オーストリア在住
- ・アリス・シュミッツホフファー/医師 オーストリア在住
- ・オリバー・ストッカー/ドルンビルン・タオサンガ代表 オーストリア在住

◇中東

- ・マガリ・ボシュ/タオ指圧セラピスト イスラエル在住
- ・マフムッド・ジャマール/エルサレム・コンソータム CEO エルサレム在住
- ・サミ・アワド/Holy Land Trust 代表 パレスチナ在住

わたしたちも、^{アースキャラバン}Earth Caravan に賛同しています!



吉永 小百合(俳優), 高橋 源一郎(作家), 辻 信一(文化人類学者), 鶴見 辰吾(俳優), イゼルディン・アブエライシュ(医師), 枝元 なほみ(料理研究家), めんどろーさ(漫画家), 相原 正明(写真家), アイリーン・美緒子・スミス(環境ジャーナリスト), 金大偉(映像作家・音楽家), クリス・モズデル(作詞家), 白石 真澄(評論家 関西大学 教授), ブライアン・ウィリアムズ(画家), ベニシア・スタンリー・スミス(ハーブ研究家), マニ・マーティン(ミュージシャン), 鎌仲 ひとみ(映像作家), カンベンガ・マリールイズ(NPO 法人ルワンダの教育を考える会 理事長), 池末 信(ゴスペルディレクター), アーサー・ピナード(詩人), 志葉玲(ジャーナリスト) 川副 春海(浄土宗平和協会事務局長), 枝木 美香(アークス仏教国際協力ネットワーク事務局長), マジン・クイムシエ(ベツレヘム大学教授), 中村 行子(元 TV 局日本語番組プロデューサー), ジョナサン・ワッツ(アジア仏教センター特別研究員), 佐々木 祐滋(NPO 法人 SADAKO LEGACY 副代表 シンガーソングライター), 河野 秀海(一般社団法人 森になる代表理事), 藤井 真知子(NPO 法人たからばこ副理事長), ロバート・レフコート(弁護士), 梶川 純司(音楽総合プロデューサー), 國井 隆英(医師), クライブ・フランス(ジャーナリスト), 河野 康弘(ジャズピアニスト), マーティン・シュミッツファー(医師), 橋元 大和(スタイリスト), 湯浅 正恵(広島市立大学 教授), 内田 ボブ(ミュージシャン), ヨシダ ダイキチ(シタール奏者), 守田 敏也(フリーライター), 下川 裕治(京都府), ガイ・ダビディ(映画監督), ステイブ・リーパー(翻訳家・前財団法人 広島平和文化センター理事長), 岡野 弘幹(作曲家・音楽プロデューサー), 蔵前 仁一(作家・グラフィックデザイナー), 伊藤 華野(ヨーガ・インストラクター), ワジラ・ワンサ(浄土宗ハワイ総監), いいしんじ(作家), 大岡 亜紀(画家・詩人), 石田 芳道(ドドン 僧侶タレント), 天川 彩(脚本家・プロデューサー), 石井 真美(自然医師), 藤田 一照(曹洞宗国際センター所長), ソーヤ・海(共生革命家), 伊藤 憲代(広島被爆一世), 信恵 勝彦(尾道「れいこう堂」店長), 石田 大介(ミュージシャン), 太田 シノブ(音楽家), 麓 俊貴(広島県), 早坂 潔(べてるの家 理事), 向谷地 宣明(べてる式当事者研究室 室長), HAOW (SingerSongWriter) ほか多数。

賛同者数: 391 名 2015 年 8 月 23 日現在 (順不同)

Earth Caravan 2016 advance announcement



アースキャラバンは、国籍・人種・宗教の違いを乗り越え、戦争を無くすことを誓い合い、その誓いを世界中に発信する世界規模のイベントです。2015年 夏、広島、京都、東京、ヨーロッパ、中東で開催され、世界各地で多くの反響をいただきました！

そして、2016 年も開催が決定！ ぜひ、アースキャラバン 2016 にご参加ください！



Earth Caravan2016 開催に向けて、賛同者の方、協賛、後援企業・団体を募集しています。

ピースサイクリングの趣旨とプラン

サイクリングの途上で、世界161カ国・地域6,991都市が賛同される「平和首長会議(会長・広島市 副会長・長崎市ほか)」参加自治体市長への表敬訪問を計画しています。各都市の市長をスーザンさん率いるサイクリング・チーム(2~3名程度)が表敬訪問し、アースキャラバンのご挨拶とサイクリングの報告を行います。

イベント予定 ※2016年3月22日現在
※日程・内容は変更される場合があります。

ピースイベント

ピースコンサート/シェア・マーケット
キャンドルナイト/アート・ギャラリー他
※開催地によって異なります。

4/23(土) 4/24(日)	広島	ハノーバー庭園 平和記念公園周辺
4/26(火)	尾道市	妙宣寺
5/3(火) 5/4(水)	京都	梅小路公園・水族館前 野外ステージ周辺
5/6(金)	長崎	JR長崎駅前「かもめ広場」
5/31(火)	カナダ・トロント	
8/15(月)~ 8/19(金)	カナダ・ケベック州北部	
8/1(月)~ 8/9(火)予定	イスラエル パレスチナ	
9/22(木)	浜松	
9/24(土) 9/25(火)	東京	木場公園

ピースサイクリング

「平和の火」で被爆地・長崎と広島を結ぶピースサイクリング。
広島から東京まではリレーでつないでいきます。
「平和の火」を携えて、各地の市長を訪ねます。

4/14(木)	長崎市	長崎市長表敬訪問 出発セレモニー(予定)
4/18(月)頃	福岡市	(未定)
4/22(金)	広島市	広島市長表敬訪問 到着セレモニー(予定)
4/26(火)	尾道市	尾道市長表敬訪問
5/2(月)	京都市	(未定)
9/24(土)	東京	木場公園会場到着 キャンドルナイト

◎お問い合わせ

◇NPO ユニ

アースキャラバン実行委員会

〒605-0089

京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 367-2

京都タオサンガセンター内

【TEL/FAX】075-551-2770

【mail】info@earthcaravan.jp

※詳細は決まり次第、随時HPにてお知らせいたします。

◇NPO ユニ 東京事務局

〒165-0027 東京都中野区野方 1-5-11

東京タオサンガセンター内

【TEL】03-3385-7558

【mail】info@earthcaravan.jp